

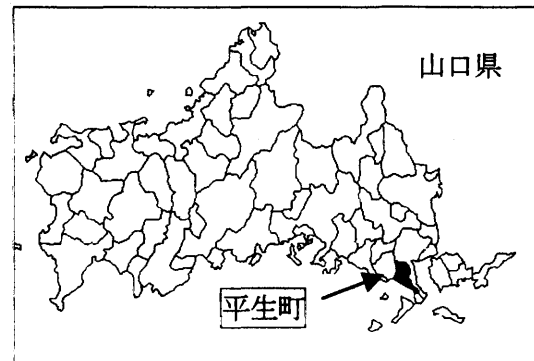
3 年 間 の 思 い が 車 い す に ! ～100 人が取り組んだプルトップ、アルミ缶回収～

平生町漁協女性部
部長 伊藤 富美江

1. 地域と漁業の概況

私たちの生まれ育ったふるさと山口県平生町は、県の南東部に位置し、「青い空、広がる海と子どもたち」のキャッチフレーズのように、温暖な気候と自然が今も残り、これらを子どもたちに是非、残し伝えたいと願い、誇りを持って愛する町です。

町の人口は約1万4千人、世帯数約5千戸。急激な少子高齢化が進む市町村の中、わずかに人口が減る傾向ではありますが、住みやすい町だといわれています。



昨年11月には、平生町漁協の山手、標高438メートルの大星山に豊富な風エネルギーを活用した風力発電所1基が建設されました。この1基で私の住む佐賀地区 1, 019 戸の電力をまかなえる能力を持っているとのこと。この風車は、新エネルギーの導入とともに、環境意識の向上や観光としても役立ち、さらに、お父ちゃんたちの漁場からも見え、私たちの灯台としての役目も果たしています。

さて、主な漁業は小型底引き網で、季節を通じていわしやはも、ひらめ、カレイ、タコなどが獲れます。

平生町漁協は、昭和39年5月1日、佐賀漁協と曾根漁協が合併し誕生しました。そのころ約300人いた正組合員は平成15年度では63名、平均年齢も67.8歳です。

2. 組織と運営

女性部は昭和39年7月2日に発足、部員数は現在48名で平均年齢63.4歳です。

部員の70%は主人と共乗りですが、漁村の活性化をめざして団結はとても固く、互いに協力し合って、毎年いろんな分野で実践活動をしています。

まず、環境保全活動では仕事場である海は当然、心休める生活の場も重要と考えております。春や秋は地元海岸線の花壇の植付けや草取りをしたり、里山への植樹を進めております。また、夏場を中心に毎月海岸清掃を続け、台風の直後は漁業者総出で大量のゴミを処理しております。「漁船のスクリューに巻き付くゴミが目に見えて減り、エンジンへの負担が軽くなる」という話を聞くと、辛い作業も大切な活動です。夏休みに入っすぐに、町民総出の海岸清掃をしますが、27年続いており、私たち漁業者がリーダー役となって、美しい海岸を育てる心を養っています。

3. 実践活動課題選定の動機

さて、私が女性部長を受けたのは、5年前の平成12年4月、昨年から3期目に入りました。

1期目の1年間は、例年の行事を無事に進めて行くのみで終わってしまいました。2年目に入り、「私たちの代に、何か活動の足跡を残したい」そして「まちや地域に貢献できる活動として取り組みたい」と副部長や役員と何回となく話し合いました。

ちょうどその頃、私の母が亡くなって1年が経っておりました。10年間の入院生活でしたが、ずっと車いすのお世話になっておりました。最初から足腰が弱かったので、専用の車いすを借りていましたが、少したつと痴呆が出て来ました。そうすと車いすを一日中さわってあります。布の部分を破ったり、ヒジの部分に穴をあけたりしていくので、病院に気の毒になり、すぐ家で1台、母用の車いすを買い、病院に持っていきました。今度は手に力がなくなり壊さなくなりました。母が亡くなった時、少し古くなっていましたが、病院に相談したところ、「何台あってもいいです。喜んでいただきます。」と言ってくれました。

こんな事情もありまして、私の頭のすみに車いすの事がずっとありました。この話を部員の皆さんに話したところ、「大賛成よ。私たちにできるかどうか、とにかく女性部から1台は寄付しましょう」ということになりました。

4. 実践活動状況及び成果

この時点で「プルトップ、ドラム缶いっぱい車いす1台」という噂話をあちこちで聞いておりましたので、「すぐ集まる、たやすい」と考えておりました。さっそく組合をはじめ家族、地域の方々に「協力をお願いします」と声をかけ、活動の輪を広げて行きました。最初はプルトップのみを2年間集めました。お茶やジュースのペットボトルに各自入れて、組合の2階に持って来てもらいました。大、中、小のペットボトルが組合にみごとに並びました。2年間たち役員皆で袋に詰め替える時、汗と臭いで大変。それ以上にプルトップが軽いのです。6個で約1グラム・・・10キログラム袋が10個出来ました。数にして約60万2千個です。「車いすになるのに私たちあと何年かかるかね」という疑問を持ちはじめました。

そして、役場に電話して「漁協女性部で車いすを寄付したいので、何か方法を教えて下さい」とはじめて連絡を取りました。私たちは紹介してもらった金属回収業者に直接連絡を取ることになりました。「プルトップだけ集めていてはなかなか車いすにはならない。手っ取り早い方法として、プルトップと一緒にアルミ缶を集めたら」とアドバイスを受けました。スチール缶はプルトップのみ、アルミ缶はそのまま決めてさっそく実行にうつしました。今度はアルミ缶でするので集積場所を組合の2階というわけにはいきません。組合と役場において海岸線に3ヶ所集積場所を確保しました。

一昨年9月、台風の前年に第1回目 プルトップ10キログラム、アルミ缶590キログラム。合わせて600キログラム。 昨年の3月、第2回目 アルミ缶600キログラムを金属回収業者に買ってもらいました。

アルミ缶は1個平均約16グラムです。両方で約1トンを超え、75,000個。業者の方が言いました。「よーく1年間で1トン以上も集めたね。こんな団体はないよ。それにしてもこのあたりの人はよく飲むんじゃね・・・」と。

でも部員の力だけではありません。積み込みの時は組合長さんをはじめ、職員の方々皆さん手伝ってくれました。一昨年台風のときにナイロン袋が破れて、空き缶が四方八方に飛んでしまい、部員皆で全部拾い集めたこともありました。それからは集積場所の空き缶に網をかぶせるようにしています。

それに平生町には佐合島という40名ばかりのお年寄りがたくさん住んでいる島があります。ある日、渡船からおりられたおばあちゃんが、「婦人部、集めちよるそうな、わしらえっとジュース飲まんけど少しだけたまったから持って来たよ」とナイロン袋に入ったプルトップ20個ばかり渡してくれました。とてもうれしく、「おばあちゃん、必ず車いすを女性部で寄付するからね。そして一番に乗せてあげるよ」と約束しましたが、このおばあちゃん今年80歳です。とても元気なので車いすの必要がなく、まだ、乗ってもらっていません。

お金がある程度たまりましたので社会福祉協議会に希望の車いすを聞きましたところ、リクライニング車いすを希望されました。

しかし、お金が少したりません。私たち女性部はチャリティバザーを毎年1回やっております。部員で遊休品、お米、お花等を持ち寄り、地域の人たちがたくさん買ってくれます。毎年4~5万円売上があります。これを歳末助け合い、海難遺児等へ全額寄付していましたが、今回は少し車いすの方へ回しました。

「絶対女性部で1台寄付しよう」という心構えなので、自発的にお金も少し集まりました。金属回収業者の人も、車いす業者の方も私達に協力して両方とも値段も勉強してくれました。結果的にリクライニング車いす1台、アルミ製車いす1台、計2台を平生町社会福祉協議会へ寄贈しました。でも協力いただいた地域の皆さんに結果を報告しなくてはなりません。私は役場に連絡して平生町の広報誌に載せてもらうようお願いしました。昨年の4月13日、平生町長、社会福祉協議会会長、組合長そして部員6名が出席して組合前で贈呈式を行い、写真を5月号に載せて頂きました。

反響はすぐ出ました。口々に「女性部さん、やったネー、たいしたものじゃネー、よう集めたネー」部員一同あの汗と臭いを忘れて大喜びです。

私たちは地域に貢献したいとの思いから、一生懸命アルミ缶、プルトップを3年かかって集め、3年間の思いが車いす2台になり、社協に寄贈できたのです。ここで一応区切りをつけることに、と女性部で話し合いました。ところがうれしい誤算が起きました。いつの間にか次の新しいアルミ缶そしてプルトップが袋に入って、もう集積場所に入れてあるのです。また一段と前に増して地域の皆さんが協力して持ってきてくれるのです。「どうする」「仕方がないね」と部員で話し合い、開き直りました。今度は「紙おむつ」をトラック1台分送ってあげようかね・・・と大きいことを言いながら、また新しい目標に向かって平生町漁協女性部はアルミ缶とプルトップを集めはじめています。

5. 波及効果

この活動を通じて環境意識が高まり、お金が生まれ、車いすに代わり、最後にお年よりの笑顔が返ってきました。

女性部にとっては、3年間の実践活動をやり終え、地域づくりに何らかの貢献ができたことへの心地よい充実感が芽生え自信となりました。

また、私たちの活動が伝わり町内の団体からも同じような活動が始まっています。

特に今回、福祉活動の分野から昨年11月「やまぐち県民活動きらめき財団理事長表彰」を県知事さんから受けました。また、県内の漁協女性部幹部研修会で活動発表したところ関心が高まり、こうなったらもう後には引けません。改めて継続の意思を固くしています。

6. 今後の課題や計画

漁村で生まれ、育ち、漁業を誇りに生きてきた漁師にとって、年を取っても暮らしやすい家や施設が必要だと思っています。これから将来の漁村・漁業について話し合いたいと思います。

また、漁業・漁村には歴史的な文化や風土があります。中でも私の地域には天保年間から豊漁・豊作を願う「白鳥神社 秋の大祭 どんでん押山」が毎年10月に行われます。この押山が漁業の担い手不足で、担ぎ手がなくなることがないように、今以上に威勢良く、お神輿が、空に上がるよう、漁業後継者を育てて行きたいと思っています。

最後に、これまでの活動について地域のご理解やご協力に取り組んでまいりましたが、これからは共に食べ物やエネルギー、水産業の原点である海を守り育てる活動を続けたいと考えております。



「車いす贈呈式」

平生町漁協女性部活動

☆ 環境保全

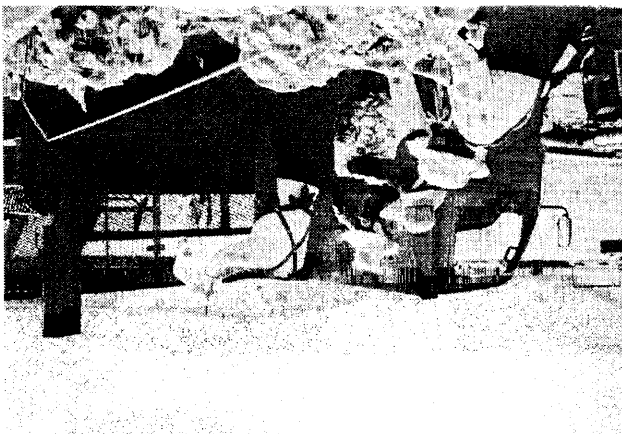
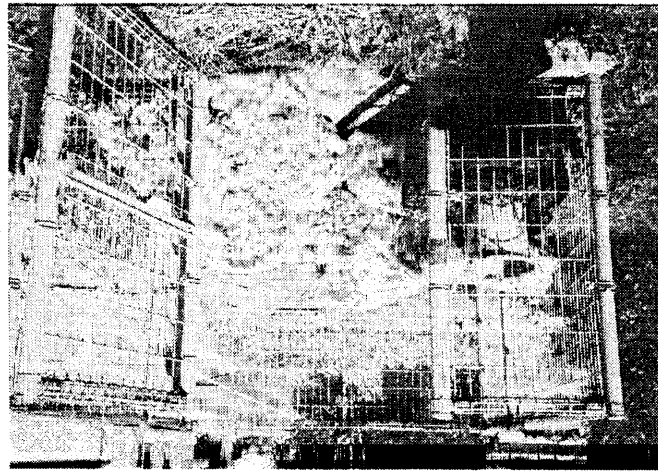
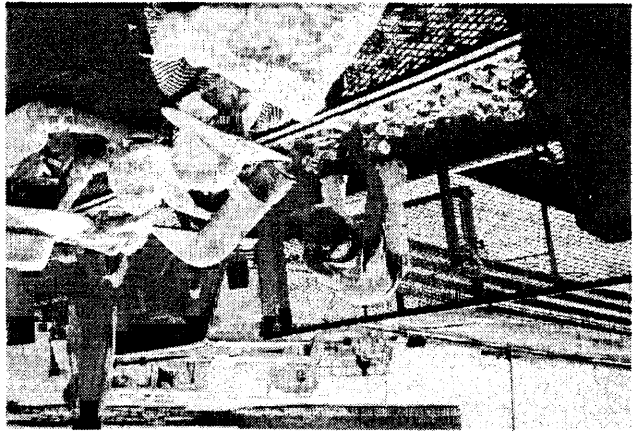
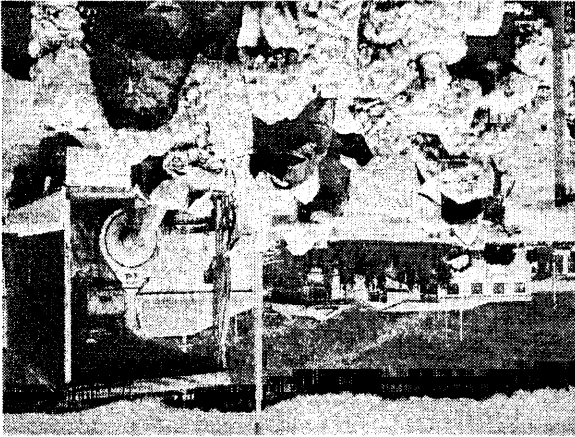


☆ 学童交流



☆ 町内行事





ク。リットル・アルミ缶回収

